



▲バイオディーゼル燃料工場での作業の様子
▲朋友館 米田 智さん



▲朋友館



●指定障がい福祉サービス事業所「朋友館」(社会福祉法人大洋会)の紹介

就業意欲がある障がい者を対象にした福祉サービス事業所。通所により必要な訓練等を行っている、自立した社会生活を送れるよう援助している。現在、就労継続支援B型施設としてクリーニング、看板印刷、軍手製造販売、農産物生産販売、バイオディーゼル燃料の精製販売、住宅清掃などの事業を行っている。

〒022-10003
岩手県大船渡市立根町字下欠125-114
TEL: 0192-27-0077
FAX: 0192-21-1632
E-mail: hoyukan@taiyokai.or.jp
URL: http://www.taiyokai.or.jp/sub11%20.html

復興の連鎖が生まれる活動 指定障がい福祉サービス事業所「朋友館」(大船渡市)

廃油がガレキ撤去重機に活用

社会福祉法人大洋会では、平成17年より廃油からバイオディーゼル燃料を精製して販売する事業を行っていた。

バイオディーゼル燃料とは、植物油や廃食用油などの油脂を原料として製造されるディーゼルエンジン用の燃料であり、近年軽油・重油の代替燃料として活用されている。バイオディーゼルは、燃焼させても元来大気内に存在した以上の二酸化炭素を発生させることはないといわれ、地球温暖化防止の役割を担っている。県内でも多くの社会福祉法人が独自事業の一つとしてバイオディーゼル精製に取り組んでいる。

ところが、東日本大震災による大津波で、廃油回収先の事業所がすべて流されてしまった。

「これから本格的に廃油精製に取り組もうとした矢先のことでした。」と朋友館の米田智さんは肩を落とす。

しかし、地域の事業所の再開などにより、徐々に廃油の回収も始まっている。さらに、今回、ガレキを撤去する重機の燃料として、初めてバイオディーゼル燃料が使用されることになった。

「大船渡では給食センターなどから廃油を集め始めています。バイオディーゼル燃料をガレキ撤去の重機に入れていただいたことで、精製事業の回復に光が見えてきました。復興に活躍する重機に使ってもらえることになり、とても喜んでいきます。私たちが今欲しいのは廃油です。地元企業さんが早く復興して、廃油を供給してほしいです。」

米田さんは期待する。

クリーニング事業を再開

震災によって、それまで受託していたクリーニングの仕事が8月までまったく無くなってしまった。ただ、この地域は断

水にはならなかったもので、1ヵ月後には近くの老人福祉施設からカーテンやシーツのクリーニングを依頼されるようになり、少しずつ再開することができた。現在も、老人福祉施設のリネンや近隣入浴施設のタオルの洗濯などを行っている。

ドン菓子製造がヒット

クリーニングの仕事が無くなったときに、施設利用者の仕事を確保するつもりで、代替事業として考えたのがドン菓子製造である。

賞味期間が長いのが強みだというドン菓子は、復興支援として全国からの引き合いが多い。「ホームページを見たという方からの注文があったり、ボランティアに來た人が被災地から帰る途中に買いに來てくれたりしています。」

震災から間もない頃には、県外のボランティアの方が独自に注文書を作って注文を取ってくれたりもしたという。「自分の周りの人から大量の注文を取ってくれて、集金したお金を渡してくれました。今でもその受注分の製造を続けています。」

米田さんは微笑む。

新事業としてパンの製造を企画

震災後、新たにパンの製造販売事業に向けて進めている。この事業のきっかけは、大船渡市内の老舗のパン屋が被災し、自力復興を断念したことだった。「なじんできた味が消えるのは寂しいし、技術が途絶えるのはもったいないと思います。パン屋のご主人に、まずは障がい者への技術指導をお願いしたいところ、快く引き受けていただきました。」

この店のパンは、地域の幼稚園や保育園のおやつに出たり、高校の売店でも売っていたという懐かしいパンで、この辺りで知らない人はいないという。「一ファンとして残したかったんです。」米田さんの喜びもひとしおだ。

パンの製造は、障がい者が取り組む事業として、ぜひとも成功させたいというのが事業所の願いである。

「働く場を自分たちで作っていかなければならぬ中で、いいチャンスをいただきました。おいしいパンを製造して、障がい者でも立派に仕事が出来るということを示すきっかけになればうれしいです。」

どこが元気になれば、こちらにも意気込みが

「朋友館」のような、障がい者に就労機会を提供する事業所にはA型・B型の二種類がある。A型は、障がい者と雇用契約を結ぶ「雇用型」、B型は、契約を結ばず、利用者が比較的自由に働ける「非雇用型」である。

「A型事業所を立ち上げたいというのが、事業所としての将来的な夢です。A型事業所になると、利用者と雇用契約を結んで仕事が出来るので、利用者に最低賃金も保障できます。」

米田さんも家が流されて被災した。家族の思い出の品が見つからないという。「でも、ガレキが撤去されて町がどんどんきれいになっていきます。仮設店舗のプレハブも建っているし、町の中に灯りが灯るようになってきました。一つの事業所が元気になって、その影響で別の事業所に仕事が増えてきて、元気になっていく。これから、どこかが元気になって、こっちも意気込みが出て来るというようになっていくと思います。」

米田さんの気持ちは明るい。

